

# 戸田中央医科、がん医療拡充

【さいたま】首都圏を中心に29病院を運営する戸田中央医科グループ（TMG、埼玉県戸田市）は医療体制を強化する。基幹病院の戸田中央総合病院（同市）に新棟を建ててがん医療の機能を強化するほか、リハビリテーション病院も新築移転で病床を増やす。戸田市以外の一部病院も増改築する方針だ。

戸田中央総合病院は4月から



戸田中央総合病院には新棟を建設する（イメージ）

新棟建設に着工し、20年2月の完成を目指す。地上3階建てで1階に放射線治療室、2階に緩和ケア病棟、3階に緩和ケア外来と核医学検査室などを設置。稼働病床を現在の489床から517床に増やす予定だ。

同病院はがん医療の中核を担う「がん診療連携拠点病院」に指定されている。国はこの指定要件を見直し、4月から同一医療圏で最も優れた病院を「高度型」と位置付ける方針。TMGは最新機器の導入などで医療体制を充実させ、高度型の指定を目指す。

戸田中央リハビリテーション病院（戸田市）は11月をめどに、南西約1・6キロの場所に新築移転する。6階建てで病床数を129から200に増やし、フロアごとに専有のリハビリスペースや言語療法室を設ける。